学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白 1丁目5番1号
電話（3986）0221内線2607
http://www.gakushuin.ac.jp/ press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　清里武志
年間300円

# ヨルダン国王、来日記念講演行う

## 「これからの日本を担うみなさんに期待したい」

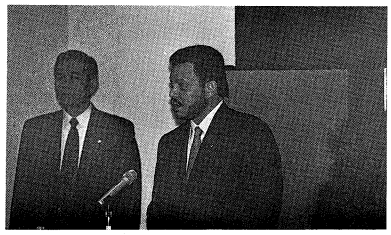
昨年の十二月二日、国際平和記念会館（豊島区）小講堂において、ヨルダン国王陛下来日記念講演会が開かれた。国王は、ヨルダンと日本の友好関係、中東和平に対する自身の思いなどを語った。講演後には、質疑応答や記念品の交換が行われた。

厳粛な雰囲気の中、アブダッラー二世ヨルダン国王とラーニィア王妃が会場に入場した。

国王、王妃陛下の紹介が改めてされた後、島津久厚院長が挨拶をした。

この後、国王の講演が始まった。まず、「このたびは、ご多忙な中、すばらしい学者・学生諸君の前で講演できることを嬉しく思います」と切り出した。次にヨルダンと日本の、過ぎし四十年にわたる親密な関係について述べた。様々な分野からのヨルダンへの援助、中東和平への働きかけに感謝し、今後、二国間のより深い信頼関係が築かれることを強く望んだ。最後に、「真の平和とは、その達成のための前進を続けることだ」と締めくくった。

続いて、出席者による質疑応答が行われた。最初に、「学生である自分たちが中東和平に対してどのように貢献することができるのか」と投げかけた。国王は、日本が行なう援助、中東和平への働きかけに感謝しつつ、「まだまだしはいけないと話した。また、同時に、中近東の経済的安定を図るためには、今や日本の援助が不可欠である。だから、これからの日本を担う学生の皆さんには大きな期待を持っている」と語った。また他にも、「ヨルダンの日本での知名度はあまりよくない。特に、若い世代間での交流が必要だ」との質問が出された。これに対して、「確かに自己宣伝の不足は認めざるを得ない。観光や、日本企業のヨルダンへの参入を促進したい。また、インターネットの利用によって、新しい世代は共通の情報を入手できる。その中からお互いの異界中の人々が解し合える関係の印として記念品の交換が行われ、国王と皇太子殿下は共に握手を交わされた。最後に、小倉芳彦学長が、今後の二国間の友好関係が続いていくことを祈念したスピーチを行い、本講演会は幕を閉じた。

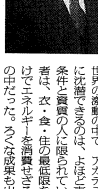

講演を行うアブダッラー2世ヨルダン国王陛下

友好の証に記念品の交換が行われた

## 五十周年記念企画　学習院歴観

### 最終回　小倉芳彦学長

# よき研究者、よき教育者とは



「学習院」と聞くと色に特別な目で見られる。そんな経験を学生諸君の多くはもっているのではないか。教職員の場合も同じである。

特に大学の学長となると、よほど由緒ある家柄の出と思われがちだ。私は学習院に勤め始めた昭和二十八年（一九五三年）春までの四年間、東大の東洋文化研究所助手を勤めた。敗戦後の急変な「民主化」から来た個の冷戦へ、朝鮮戦争からサンフランシスコ講和条約へと続く世界の激動の中で、アカデミックな研究に沈潜できるのは、よほど恵まれた生活条件と資質の人に限られていた。多くの者は、衣・食・住の最低限を確保するだけでエネルギーを消費せざる得ない世の中だった。そんな成果も出ないままに、中学・高校は旧制の武蔵高校、学習院大学に進まれ、特別な学歴を経て、晩年は仙台のごく普通の家柄で、私自身は昭和の初年に朝鮮の京城（現ソウル）で生まれ

# 高まる老後不安―年金・介護―
# 自己責任の可能性と限界

「老い」。遥か先のことだと感じるかもしれません。しかし、大学を卒業し、就職、結婚など、人生の節目をあわただしく駆け抜けると、もうあなたは「老い」の世界に足を踏み入れていることでしょう。急速な少子高齢化による国民年金の危機や介護問題、私たちの肩にずっしりのしかかってくる「老い」を今回は特集します。

## 厚生省担当者に聞く
## 国民年金のいま・未来

国民年金が今、逆境に立たされている。折からの少子化に加え、25年後には六十五歳以上の人口割合が分の一を超えるとされ、納付・給付のバランスが崩れるなど、問題は山積だ。また、政界から「税方式転換」を求める声があがるなど、年金制度自体の変革を迫られる状況にもある。それらの課題に対し、国はどのような対応をとるのか。現の年金制度を老後の所得保障の柱として安定した制度とするためには、現役世代が負担することになる。国庫負担の増加が必要となる。だが、厚生省の看板事業であるこの問題に対処するのか。

――現在の公的年金制度のコンセプトとは。

――今の公的年金は、基本的に、現役世代の保険料で高齢者世代の給付を賄って成り立っている「世代間扶養」の制度を採用している。この制度は、六十歳までの国民がみな国民年金に加入する要があり、そしてそれは学生も例外ではない。

――現システムでは、年金を支払わなければならない支払方式だと、二万円の収入が八百万円以下だと納付しなくてもよいなど、何よりも高齢になった時、国からも年金が支給される資格を得られることにある。公的年金は国が責任をもって運営していて、財源は国の財政状況に左右されない仕組みとなっている。したがって年金制度が破綻するとはないので心配する必要はない。

――民間の個人年金との比較がしばしばなされるが。

――民間と比べても、公的年金に遜色はないと考えている。民間の年金は、いろいろな会社に分散されているというのも公的年金の特徴である。特に、若者の年金保険料は、そっくり国庫負担となっている。そして次期国会に引き続き提案される予定の年金制度改正法案のなかに、学生の間は納入が猶予される制度が採用されている。国庫負担割合を現行の三分の一から三分の二へ引き上げ、併せ、少子高齢化のピークにおいても、国民年金制度が確実に機能していくことになるのである。

――学生でも二十歳になったら支払わなければならないとのことだが、二万円の収入が八百万円以下だと納付しなくてもよいなど、何よりも高齢になった時、国からも年金が支払うと見込んでいる場合、学生でも容易に年金を納入できる仕組みを整備する方針である。

――年金制度改正法案において、少子化や高齢者人口の増大の問題に対処していっているのか。

――現在、六十五歳以上の高齢者一人に対し四人の現役世代が支えていることになるが、これが二〇二五年には3・4人で一人、二〇五〇年には1・8人で一人という計算になる。現行制度の給付水準を変えずに、納付する側に多大な負担をしいることになるのである。現行制度の給付水準をこのまま推移した場合、納付する側に多大な負担をしいることになるのである。現行制度の給付水準を変えないという問題がある。現行制度の給付水準の適正化、なかでも盛り込まれている。国庫負担割合を消費税で賄った場合、消費税率は10%程度に上がる。もっと見込まれてはおり、国民の負担増が不可欠な問題になるといえよう。

――「無理のない負担と確実な給付」を約束するものとなっている。

――現在、国主体が主張している「年金制度税方式」転換論について、その見解は。

――未加入者が皆無となる点において、少子化や高齢者人口の増大の問題に対処するとされる。ただ、「税方式」だと給付と負担の関係がはっきりしないことなる恐れがある。

――「税方式」ではなくて「社会保険方式」が現在採用されているのか。これに対し、「税方式」だと、利益の明確化」というのが挙げられる。「納めた額に応じた年金をもらう」という考え方と負担の関係のわかりやすさが、「税方式」だ。

――年金制度の実際の納付状況と、学生の意識をアンケートで聞いた。有効回答総数は一七八。

――「今の年金制度を信用しているか」に関しても、「義務づけられているから」が最多数となったが、二十歳未満で60%がはい、残りは「納めている」人は25%などと同答した。納付が義務づけられているから、納める理由（グラフ上）としても、「義務づけられているから」が過半数に達し、納付額が安いからが、二番目に多かった。一方、二十歳以上では、「自分で納める予定だ」と答えた人の中で、「納める予定としたが、二十歳未満では、「老後の暮らしが不安なので」が最多となっている。一方、二十歳以上

# 再考 大人の条件

今年は一月十日に成人式が行われ、多くの人が「大人」の仲間入りを果たした。法律上では「二十歳＝大人」という区分になっているが、なぜ二十歳で「大人」といわれるようになるのだろうか。「大人」とは何かを考えてみたい。

## 法律が定める基準

二十歳になって得られることが挙げられる。選挙権は私たちの生活を左右する権利。そのため「正しい判断力と知識」が求められている。「正しい判断力と知識」が不足しているとみなされている年少者には認められない。この年齢から交通ルールを理解し、順守できると考えられているからだ。

パチンコ店・雀荘は「おとな」を待ち、飲酒ができるようになるのが十八歳の誕生日。中国では十八歳に選挙権が与えられる。

このように国によって法律の規定もさまざま。各国の文化や歴史がその背景にあるようだ。

十八歳という基準

権利によっては十八歳が一つの基準になっている。それは一体どういう理由からなのだろうか。

車の免許を取得できるのは十八歳から。この年齢から交通ルールを理解し、順守できると考えられているからだ。

選挙権は「おとな」を待ち、飲酒ができるようになるのが十八歳の誕生日。中国では十八歳に選挙権が与えられる。

このように国によって法律の規定もさまざま。各国の文化や歴史がその背景にあるようだ。

二十歳という基準

二十歳が一つの基準になっている理由は二つ挙げられる。一つは身体的な理由。飲酒や喫煙は成人してからも悪影響があるとはいえるが、未成年の頃からであると特に影響がある。例えば、脳の発達を妨げ、内臓に大きな負担をかける。ガンになる危険性を高める。アルコール・ニコチン依存症に陥りやすい。こういった解害は数えきれない。

もう一つの理由として、二十歳未満の年少者は「正しい判断力と知識」が不足しているとみなされている。

## 友のいる風景

### 友から学んだ新しい視点

今回お話を伺ったのは、その立派なお話から、始皇帝（のあだな）で親しまれている史学科の鶴間和幸教授です。紹介してきたのは、中国人の呂家力さん。お二人はどのような友情を築かれたのでしょうか。

**三十五歳で留学**

僕の若い時には日本と中国の間に国交がなかったので、三十五歳の時に初めて長期留学しました。中国社会科学院の研究所に一年間お世話になりました。その所長さんの紹介で、人生の師ともいえる呂さんに知り合う事ができました。童顔で、中国人でもあまり見かけない、髪形がおかっぱ頭でとても印象的でした。呂さんは、僕の留学前に、僕が書いた論文を中国語に翻訳してくれていた人でした。そんなことは知らずに初めて会ったのだけど、縁があったのですね。

**白頭の友と中国社会**

彼は一年間僕についてくれて、研究の面から日常の世話までしてくれました。昼間は研究の毎日でしたが、夜は自宅（はいちゅう）という四十～五十人と気付きました。例えば、古代の遺跡を歩いにしても、周辺の農民と話をしたり、人々のコミュニケーションを大切にしています。そうやって本学ではない情報を積極的に得られるようになったのは、彼を通して自分が学んだからでしょう。

学問は一人ではできません。だから僕は、学生たちには共同研究をやらせています。それが一つの出会いの場ともなるし、みんなでやることで何か新しいものを作っていけると考えています。

「人付き合いを大事にする」というのも、中国での彼との生活から得たことです。

（聞き手・構成　堀　夕起子）

文学部史学科

**鶴間和幸教授**

プロフィル

鶴間和幸（つるま・かずゆき）

一九五〇年生まれ。七四年東京教育大学文学部卒業。八〇年東京大学院博士課程単位取得退学。茨城大学を経て、九八年より本学史学科教授。専攻は中国古代史。

し、中国人は信頼な知人のネットワークを持っていて、文化として人間関係を非常に大切にしているため、一度親しくなれば親しい政治情勢を生き抜いて獲得した知識も話してくれます。僕は彼と友達になったことで、中国という社会の様々な側面を知ることができたと思っています。

彼を通して学んだこと

一年間のこの体験で、僕は変わりました。それまでの僕は書物を通じ

## 社会的にみる大人の条件

永田良昭教授

それでは社会において「大人」とはどういう風にとらえられているのだろうか。本学文学部心理学科で、主に社会心理学を教えていらっしゃる、永田良昭教授にお話をうかがった。

（取材・構成　佐々木浩二）

◇・◇・◇

**社会心理にみる大人**

社会心理学の観点から、大人というのは年齢で区切れるものとしては認知されていない。大人とは社会的な意味で定義されるのであり、現在日本において大人になるための条件は、四つの社会的要素から成り立つと思う。

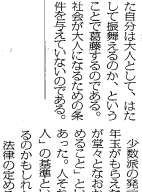
**大人の四つの条件**

まず一つに自らを相対化させる能力があることである。相手の目の位置から物事を判断することができるということだ。

次に、自らを相対化できるが、決して相手の言いなどとなるべく、自分なりの基本的原則を持てることが大切である。

三つめに、自分のアイデンティティを持てること。いったんやってみれば、社会において自分の役割を理解して、それを実際に行動できるということだ。しかしまだ不確なことは、その役割にとらわれすぎないことである。

最後に重要なのが、今までのような精神的な自立だ。自立した生活をしていくなかで、他人からの関心のない若者が、二十歳以下の学生から



成人式会場

成人式に来場した若者たち。しかし、大人とよべるのは、その内の何人なのだろうか。

できるようになることと思う。

**社会の現状**

ただ現状では、高校、大学などの高学歴化が進むことによって、なかなか自立することができないでいる。「学歴」によって、社会が大人になるための条件を持たなくなり、自分の持つ役割や責任がはっきりとつかめなくなっている。それによって自分を失う病的に自立できない」という人たちが多くなっている。

「自己判断ができる」「経済的に自立できる」という人たちは、いつ大人となったのか。

自己が多くなっている。

**過酷な成人式**

大人として認められるには、過酷な試練に耐えなければならない例もある。

アメリカインディアンの成人式の場合は、男子は十歳になると、部族の長から、小指を切り、最後に走り続けて倒れて命があれば、その若者は一人前の大人、戦士として認められるのだ。

**外国の成人式**

古代ローマでは、男子は十四歳になって国の外出を着る儀式を耐え抜いて、一人前の大人と認められる。

まず四日四晩飲まず食べず、そして一睡もせずに過ごす。その後若者は、鎖骨の下に穴を開けられ、天井から体を吊り下げられ、気絶する。次に斧で自分の指を切る。最後に走り続けて倒れる。

スーリー平原に暮らしていた狩猟民族だった。その若者は「オ・キー・パ」と呼ばれる過酷な儀式を耐え抜いて、一人前の大人と認められる。

**社会的に認められる大人**

現在行なわれている成人式は、日本でも古くから行なわれていた「元服」に由来する。十一歳から十五歳ごろまでの男子が、成人の証明として髪を結い、冠をかぶる儀式である。この時に切髪を断ち、烏帽子をかぶるようにしたこと、貴人の子息の場合は必要に応じられたりもして、大人の一員として認められる。

また女性は、成人を迎えた時、「笄」という髪ぬきを結い、初めて、大人として認められるようになる。

**さまざまな成人式**

成人式の由来

現在行なわれている成人式は、日本で古くから行なわれていた「元服」に由来する。十一歳から十五歳ごろまでの男子が、成人の証明として髪を結い、冠をかぶる儀式である。この時に切髪を断ち、烏帽子をかぶるようにしたこと、貴人の子息の場合は必要に応じられたりもして、大人の一員として認められるようになる。

また女性は、成人を迎えた時、「笄」という髪ぬきを結い、「笄」という髪ぬきをかぶるようにしたこと。

**過酷な成人式**

大人として認められるには、過酷な試練に耐えなければならない例もある。

アメリカインディアンの部族では、男子は十歳になると、部族の長から、小指を切り、最後に走り続けて倒れて命があれば、その若者は一人前の大人、戦士として認められるのだ。

## 学生に聞く「大人」という自覚

日本の法律で、大人は二十歳からと定義されている。また、大学にいる両に多くの学生は「大人」になる。ではそれ、社会において「大人」とどのように考えているのだろうか。

◇・◇・◇

「別に何とも。想像もつかない。成人式も迎えてないし。老けたなと思ったのでよく分からない。今まで、お肌が曲がり角になる頃なんじゃないかな。このよりなあるの関心のない若者が、二十歳以下の学生から

の意見として大半を占めた。

逆に、二十歳を過ぎた学生に聞いてみた。すると

「責任がきちんと取れる」、「自己判断ができる」、「経済的に自立できる」という人たちは、いつ大人となったのか。

たとえば、最後に走り続けて倒れる前に、二十歳を迎えた者が多かった。

少数派の発言として「おしゃべりに振舞えるのか、という点が疑問となるなかで正しく飲めること」といったものもあった。人それぞれの「大人」の基準というものがあるのかもしれない。

法律の定める二十歳は一般的な基準である。「これが大人」かどうかという認識の度合いも違うようだ。

## 映画

### クッキー・フォーチュン

監督　ロバート・アルトマン
出演　グレン・クローズ、リヴ・タイラー、ジュリアン・ムーア他
1999年／アメリカ／カラー／118分／配給　KZエンタテイメント

バーボンとブルースに酔う、アメリカ南部の田舎町。この町で復活祭を目前に控えた週末、天国にいる夫に逢うため、一人の老婦人が銃の引き金を引いた。幸福であったはずのクッキーの死。だが、第一発見者の狂信的ソリック教徒の姪・カミール（グレン・クローズ）は、とっさに「自殺は一家の恥！」とクッキーの自殺を強盗殺人に仕立て上げてしまう。そのため皮肉にも、クッキーの世話をしていた家政婦然のウィリスに容疑がかかる。おかげで平和な町は大騒ぎ。ウィリスの逮捕に抗議すべく留置場に居座るカミールの姪のエマ（リヴ・タイラー）。ウィリスの無実を信じる一癖ある町の人々。やがて、小さな町を覆う「秘密」が次々に明らかにされていく。

この物語の主人公とも言うべきは、スクリーンに雰囲気を漂たし、ストーリーまでをも左右する「町」である。舞台となるミシシッピ州“ホリー・スプリングス”は、実在する町。家や標識、停まっている車まで、すべて手を加えられることとなく、セットとして使用されている。

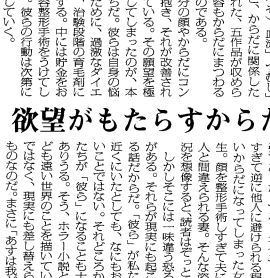
またここは、南部の伝統が受け継がれ、控えめな女性のマナーも生きている土地柄だ。歴史的で、いまだに過去の空気が流れている独特な町。映画の全編を通して流れるブルースも、この南部の独特な空気を醸し出している。

そして登場する人々も、この「町」ならではの表情を見せる。そこには人間味あふれる温かさと、コメディーとしての一面をも垣間見ることができる。

ウィリスが逮捕されても、彼を犯人だと思う人は少ない。逮捕した保安官でさえ、ただ、留置所のドアは開けっ放し、コーヒーは飲み放題。おまけに復活祭のこじ馳走まで差し入れられる始末。それはなぜか。彼らは釣り仲間だからである。駆けつけた町唯一の弁護士も彼の無罪を信じている。彼もまた、釣り仲間なのだ。

この町は素朴で暖かく、ユーモアついっぱいのこの作品。観る人を優しい気持ちにさせてくれる。その芳醇な味わいは“フォーチュン・クッキー”（運試しの占いクッキー）さながらの幸福感にあふれている。

（北岡　亜希子）



正月第二弾　渋谷シネセゾンにて公開予定

## CAMPUS GUIDE

●写真部
「写真部二月展」
日時：2月17日（木）～20日（日）
場所：新宿駅東口徒歩3分
料金：無料
見所：1、2年のみの展示会ですが、今までに劣らぬ作品ぞろい。
（委員長・敬2・古賀正樹）

●三曲研究会紫竹会
「春の演奏会（仮）」
日時：4月26日（水）
場所：本学西2ホール
料金：無料
見所：お琴・三味線・尺八の合奏を発表します。新入生にも、もちろん2～4年生も楽しんでもらえるように選曲しました。今までなじみのなかった邦楽の世界にふれてみませんか。
（委員長・日2・中島明美）

## 読書

### 欲望がもたらすからだの崩壊

『脳「からだ」』
乃南アサ著
文藝春秋刊
1429円（税抜）
1999年刊

本書からだをテーマにした短編集だ。「脳」（のう）・「血肉」（ちにく）・「尻」（しり）と、からだに関係した題名がけられた、五作品が収められている。内容もからだにまつわるホラー小説なのである。

だれもが自分の顔やからだにコンプレックスを抱き、それが改善されることを願っている。その願望を極端な方向に移してしまったのが、本書の主人公たちだ。彼らは自身の悩みを解消するために、過激なダイエット法をこなし、治験段階の育毛剤に手を出したり、治験段階の美容整形手術をうけてしまうこともいとわない。彼らの行動は次第にエスカレートしていく。

そして自分たちの顔が崩れたようにする時、あなたがこんなからだになったのなら、からだは反乱を起こす。目標の達成に近づくにつれてからだのバランスが崩れていく。そこで異変に気づき、自分の行為を考え直す人もいる。しかしコンプレックス改善に固執するあまりなって、壊れたからだなのに、それを一番良いものだと信じてしまう人もいる。からだは信じてしまう人もいる。からだは信じてしまう人もいる。からだは

# スカッシュ 全国ベスト8入り

GAKUSHUIN SPORTS.

第二十七回全日本学生スカッシュ選手権大会が、幕張テクノガーデンにて行われた。本学からは関東大会を勝ち抜いた14名が出場し、中でも、シード選手として出場した、中村嘉紀主将がベスト8入りを果たすなど、「スカッシュ部」への昇格後、初の公式戦でますます の成績を収めた。

技術面、体力面共にシード選手の貫禄を見せる、見事ベスト8入りを果たした中村嘉紀主将。

「同好会」から「部」へと昇格した本学スカッシュ部。ここに本学勝学習院の、新たなるスタートが切られたのである。

昨年十二月七日から十一日までの五日間、第二十七回全日本学生スカッシュ選手権大会（個人戦）が行われた。

## 昇格への道

### 三団体の昇格は「特例」 高まる期待

昨年十一月二十七日、中央教室にて運動部常任委員会による定例総会が行われた。今回、この場でラクロス同好会、スカッシュ同好会が部へ、ハンドボール愛好会が同好会へそれぞれ昇格することが承認された。

では、昇格の承認を得るにはいかなる手続きが必要なのだろうか。

まず、昇格を希望する団体は同好会、愛好会として四年間の活動がなされていなければならない。

と同時に、毎年行われる定例総会で一年間の活動報告をし、その度に承認を得ている必要がある。また、運動部に加入している団体の間で知名度が高いことも求められる。以上の条件を備えた団体の多くは昇格を希望する。やはり、昇格することで得られるのは大きい。ランクが上がることで、対外的な面が良くなると、今まで使用できなかった声援の施設が使えるようになることと等がその理由として挙げられる。

また昇格を希望する団体は、次の書類を常任委員会に提出する必要がある。最近五年間の活動報告書（創部以来の歴史を記した書類）、昇格希望理由書と該書類提出時の会計報告及び所属団体長を務める、愛好会として四年間の活動を記した書類を教務部の上、運動委員会の議題にする。

この時、書類以外に最大の論点となるのは、「マネージメントミスの有無」である。提出すべき書類はきちんと出しているか、出席すべき式典に常に参加しているか、日頃の姿勢が問われるのだ。

運動委員会で三分の二以上の賛成を得ると、総会の議題となる。そして総会において、有効議決数三分の二以上の賛成を得ると、昇格が承認される。最後に、運動部指導委員会による承認を得て、正式に昇格が決定する。

「今年は三団体の昇格が承認されたが、例年は三四年に一団体が昇格するのが普通。今回は特例である。この気持を忘れず、いい成績を残してほしい。運動部常任委員会の副委員長兼運営監督である勝倉豊さん（経四）は今回の昇格についてこう語った。三団体にかかる期待は大きい。

## 全国出場持ち越し

### ラクロス女子

後半16分、清水選手（写真中央）がゴールを決める

両チームを分かつ運命は、あまりにも明白だった。この一戦を勝ちまとめれば、その時点で全国へ、負ければ、全国への道は瞬時に閉ざされてしまう。

昨年十一月二十日、大井競技場にて行われた関東学生クラロス決勝リーグ第二戦（対日体大）。序盤から試合の流れは日体大に。状況判断の甘さに加え、ファウルも誘ったあ大胆な試合運びに、本学は点を全国へ。負けられない試合の中、相手は、中村主将は相手のショットをボレーで返してしまう。シーンは